

第 29 回技術研究発表会 梗概 < I 論文 >

【発表No. B06】

| | |
|---|--|
| 論文No. | B06 |
| タイトル | JR 南武線（稲田堤駅～府中本町駅間）連続立体交差事業による ストック効果 |
| 所属・名前 | 東京都 玉田 雄亮 東京都 横沢 香奈江 |
| キーワード | ① 連続立体交差事業 ② 踏切除却 ③ 高架下利用 |
| <p>都内には、今なお約 1,050 箇所の踏切があり、このうち約 200 箇所以上が、ピーク時 1 時間あたりの遮断時間が 40 分以上のいわゆる「開かずの踏切」である。これらの踏切は、東京の最大の弱点である慢性的な交通渋滞や市街地の分断などを引き起こし、都市機能の低下を招く大きな要因となっている。東京都建設局では鉄道事業者及びその沿線区市と協力し、これらの諸問題を解決する手段として、道路と交差する鉄道を立体化する連続立体交差事業を推進している。</p> <p>本事業は、東京都が事業主体となり、稲田堤駅から府中本町駅間の約 4.3 km を高架化し、道路との立体交差を図ることで、15 箇所の踏切を除却したものである。</p> <p>踏切の除却や付属街路の整備により、交通渋滞の解消と円滑な消防・救急活動に寄与するとともに、道路と鉄道それぞれの安全性が向上した。</p> <p>また、高架下利用により地域の賑わい創出などの活性化が図られ、地域住民及び駅利用者の利便性・快適性が向上した。</p> | |